



株式会社ラクト・ジャパン

会社説明会

2017年1月21日

本日お伝えしたいこと



ラクト・ジャパンはこんな会社です

1 乳原料・チーズをメインに取り扱う専門商社

あらゆる乳製品原料を取り扱うリーディングカンパニー

2 独立系専門商社で独自のポジションを確保

乳原料・チーズにおいては国内随一の規模と調達力

3 黎明期にあるアジア乳製品市場の開拓で成長目指す

乳原料の輸入販売のほか、食材としてのチーズ製造で更なる成長目指す



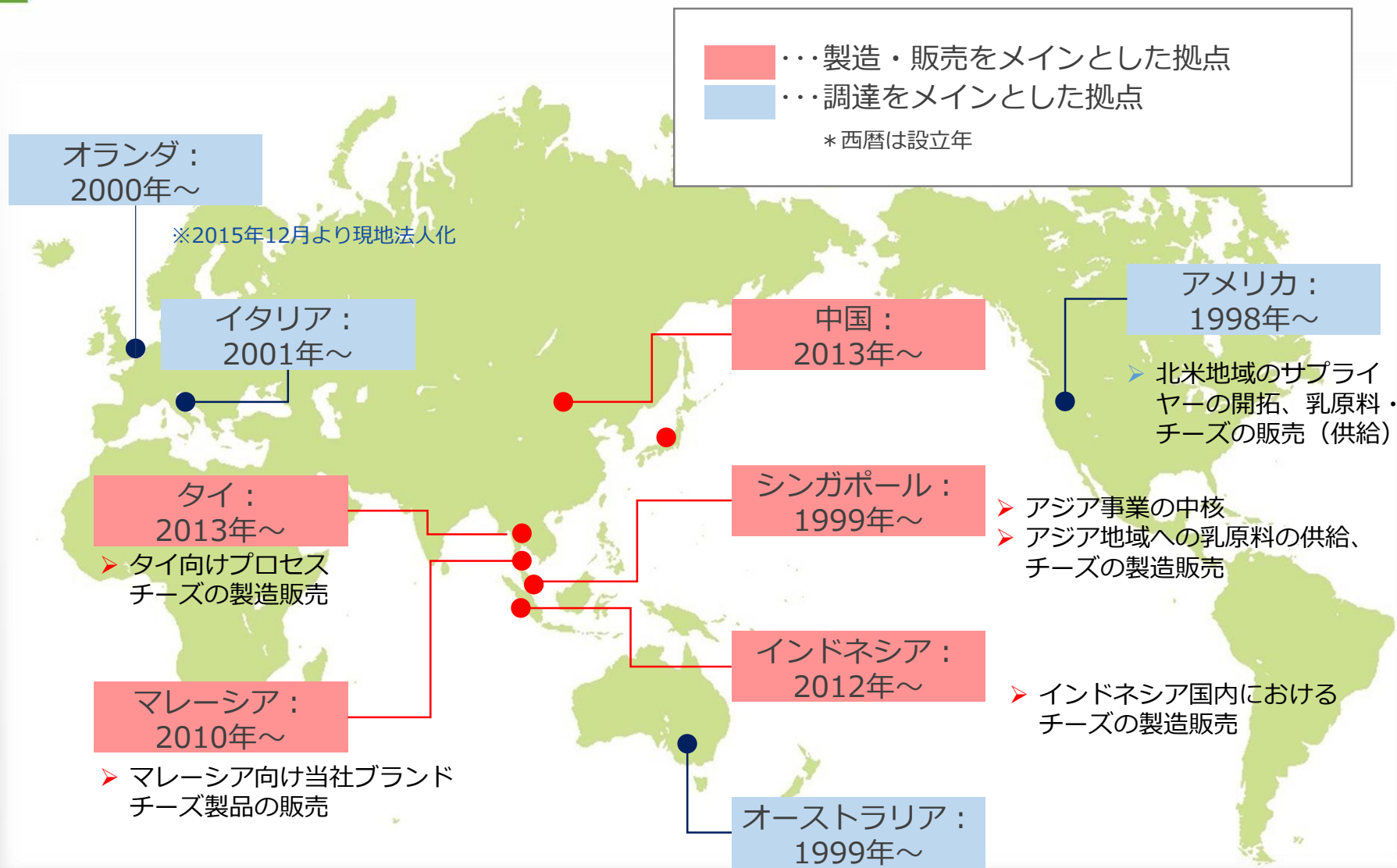
ラクト・ジャパンってどんな会社？



会社概要

会 社 名	ラクト・ジャパン株式会社
設 立	1998年5月 設立
代 表 者 名	代表取締役社長 八住 繁
従 業 員 数	連結：202名／単体：77名（2016年11月末現在）
事 業 内 容	乳原料・チーズ、食肉加工品等の輸入を主とする卸売 および海外子会社によるチーズの製造・販売事業
上 場 市 場	東証2部
証券コード	3139

グローバルネットワーク



2016年11月期 連結売上構成



アジア事業・その他

13.3%

食肉加工品

18.4%



16.11期
連結売上高
886億円

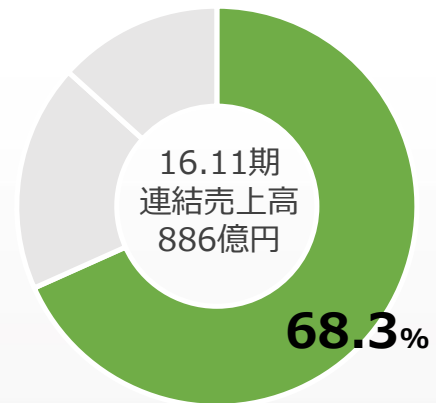
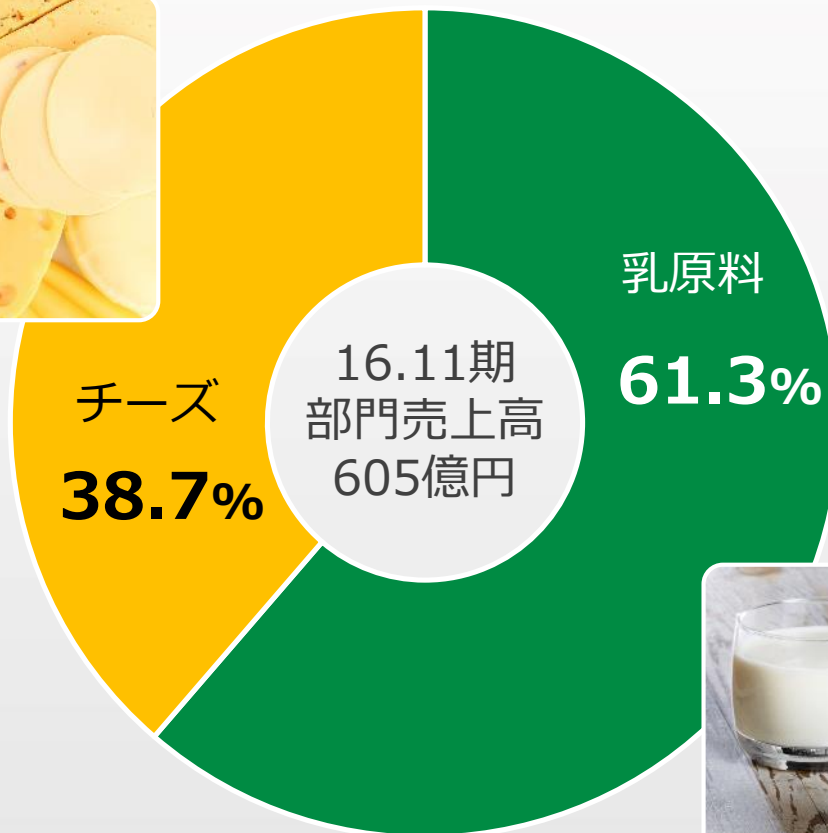
乳原料・チーズ

68.3%



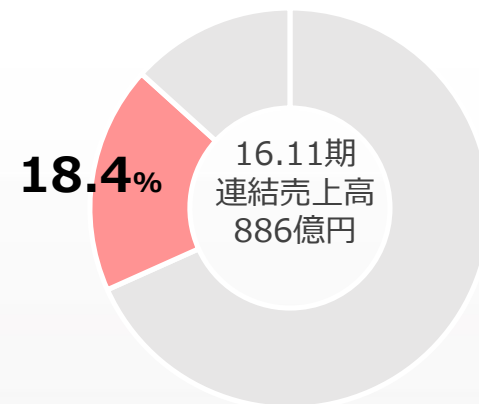
乳原料・チーズ事業

乳原料とチーズの輸入販売



食肉加工品事業

豚肉や生ハムをなど食肉加工品の仕入・販売
米国からはチルド・ポークを輸入、欧州その他の
地域からは生ハム等を輸入



北米・カナダ・欧州の
ポーク生産メーカー

欧州その他の地域
生ハム・サラミ等
生産メーカー

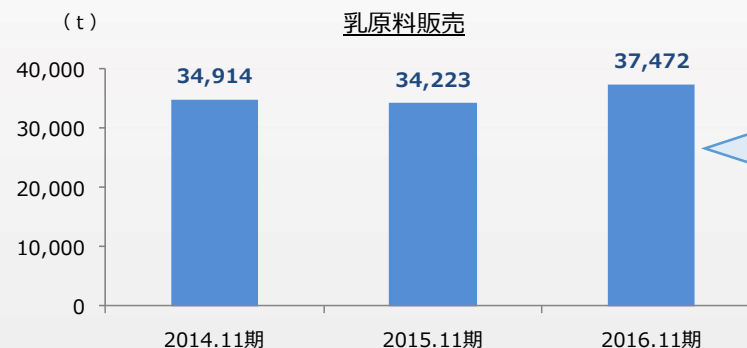
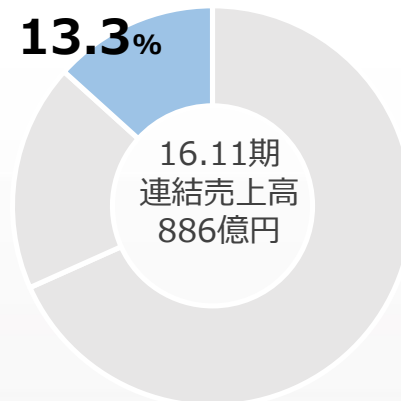


食肉加工メーカー
外食チェーン
リパックメーカー

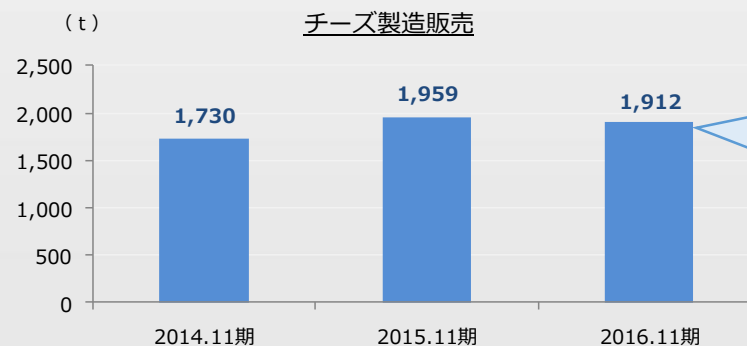
リパックメーカー
小売店

アジア事業・その他

シンガポールを中心に、アジア地域に向けて
乳原料の販売と、食材としてのチーズの製造販売を
手掛ける



【販売拠点】
シンガポール



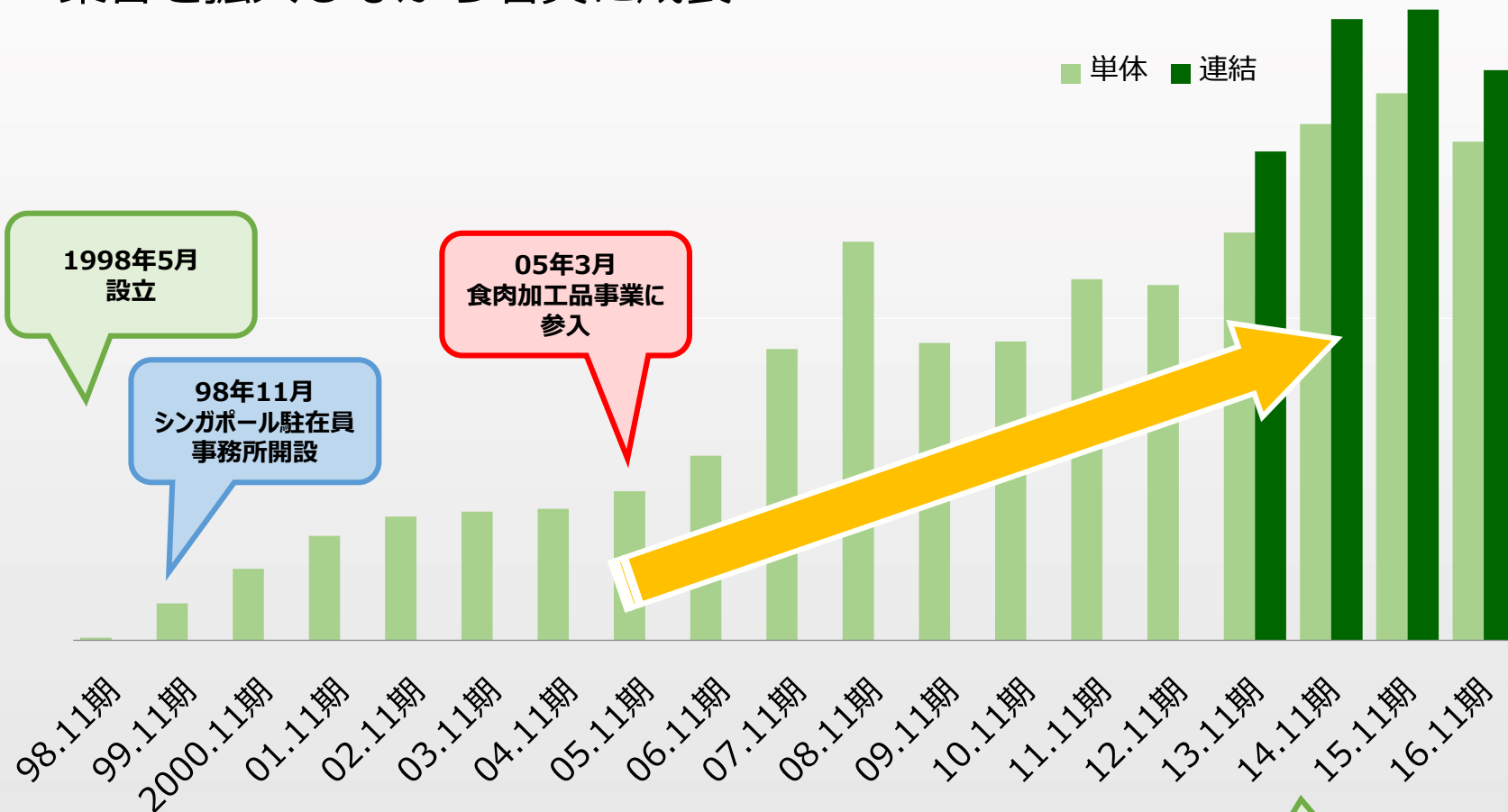
【生産拠点】
シンガポール
タイ
インドネシア

ラクト・ジャパンの歩み（売上高推移）

乳原料・チーズ事業をベースに、
業容を拡大しながら着実に成長

連結売上高
(2016.11期)

886 億円



2015年8月28日
東京証券取引所
市場第2部に上場

ラクト・ジャパンが扱う商材は
どんな特徴があるの？



乳原料の用途は想像以上に幅広い

牛乳を構成する四つの成分

タンパク質

ミネラル



糖

脂 肪



- チーズ
- アイスクリーム
- ヨーグルト
- 菓子 (チョコレート、キャラメルほか)
- 医薬品
- 甘味付与剤
- 結着剤 (ハム、ソーセージなど)

ほか

ラクト・ジャパンが扱う乳原料は膨大な種類

汎用乳原料

バター

脱脂粉乳

約 **40** アイテム

ホエイ

カゼイン

チーズ

乳糖

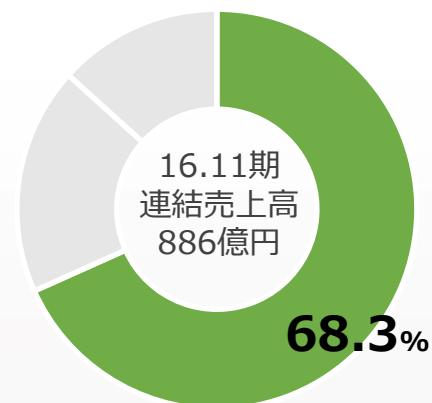
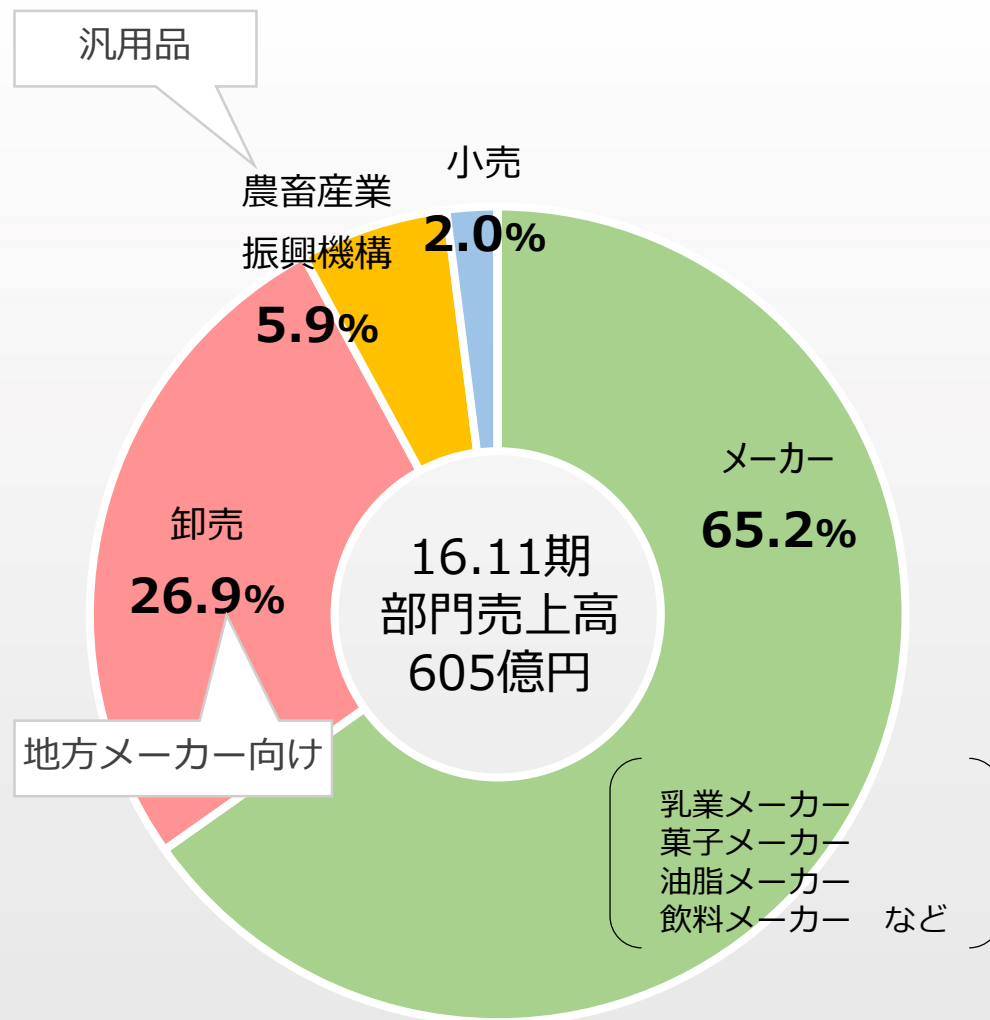
カスタマイズ品

約 **500** アイテム

顧客ニーズに
合わせて
原料をアレンジ



多様なお客様に乳原料をお届けする



ラクト・ジャパンの特徴と強みは？



「専門性」「提案力」「多様な調達先」が当社の特徴



取扱いが難しい乳原料

- アイテム数が多い
- 品質管理が難しい
- 需要高く、安定供給が必要
- 複雑な関税制度



独立系専門商社だからできること

- 系列に縛られない全方位型の取引
- きめ細やかな顧客ニーズへの対応

	ラクト・ジャパンの ビジネスモデル	大手商社・食品部門の ビジネスモデル
調達	独自のネットワークで 戦略的パートナーを確保	提携・系列企業があれば優先
販売	幅広い取引先 ※同じ業種でも複数企業に 納品も可能	提携・系列企業があれば優先
取引スタイル	取引ロットの多寡を問わず、 顧客ニーズに対応	基本的には系列企業を中心に 大量調達・大量販売
担当者	頻繁な異動なし 乳原料一筋の専門家集団 乳原料部門だけで約50人	一定期間ごとのジョブローテーション “大企業の一組織”という陣容

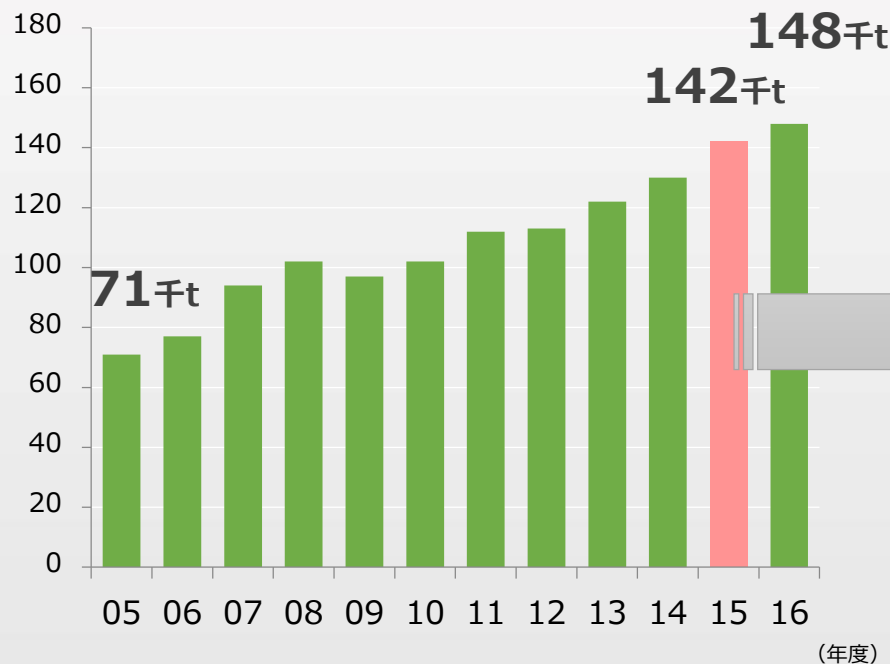
国内随一の規模と調達力

国内最大規模の乳製品商社

乳原料・チーズの取扱量はこの10年で倍増、輸入シェアは約30%

当社の輸入取扱量（乳原料・チーズ）

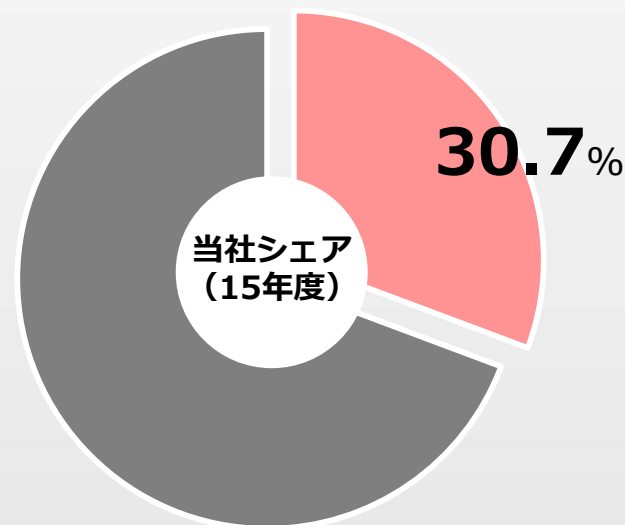
（単位：千t）



注）データは固形換算

輸入乳製品に占める当社取扱いシェア

総輸入量 : 463千t (2015年度)
当 社 : 142千t (2015年度)



出所) 農水省「食糧需給表」を参照のうえラクト・ジャパン作成
輸入総量を固形換算し（係数0.1）シェアを計算



乳原料・チーズ事業を取り巻く 事業環境は？

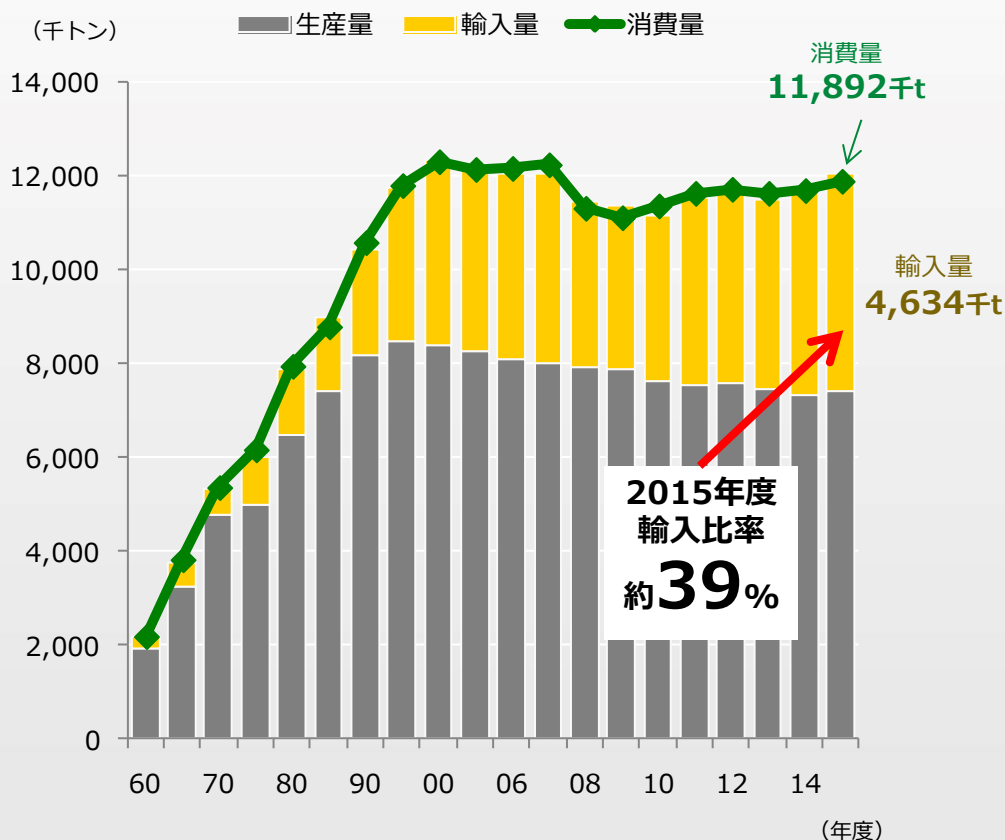


乳原料への需要は今後も高まる

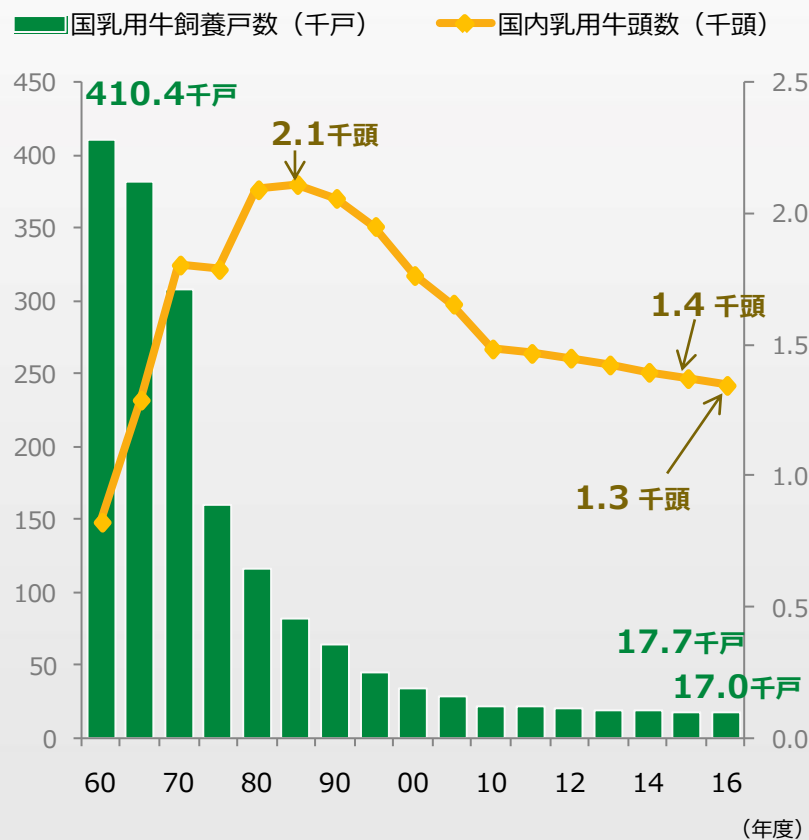
乳製品消費量は高位安定

国内酪農業の生産力低下で輸入原料への需要はますます高まる傾向

牛乳・乳製品消費量と国内生産・輸入の状況

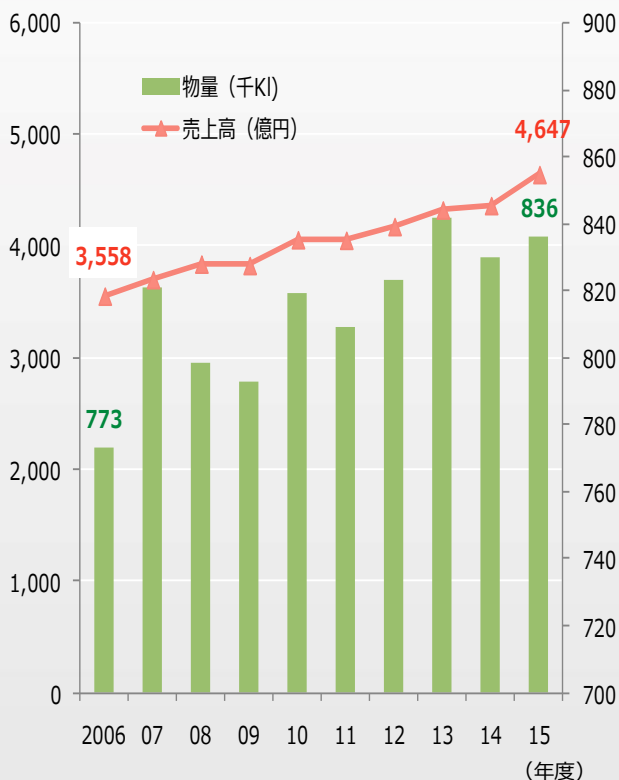


乳用牛飼養戸数・頭数累年統計



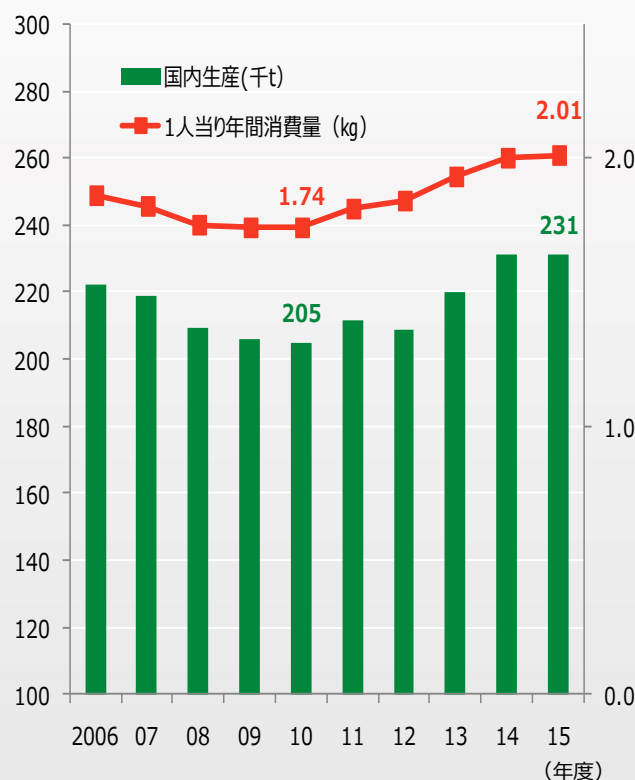
国内の乳業メーカー・菓子メーカーの乳原料需要は高い

アイスクリーム類及び 氷菓販売金額の推移



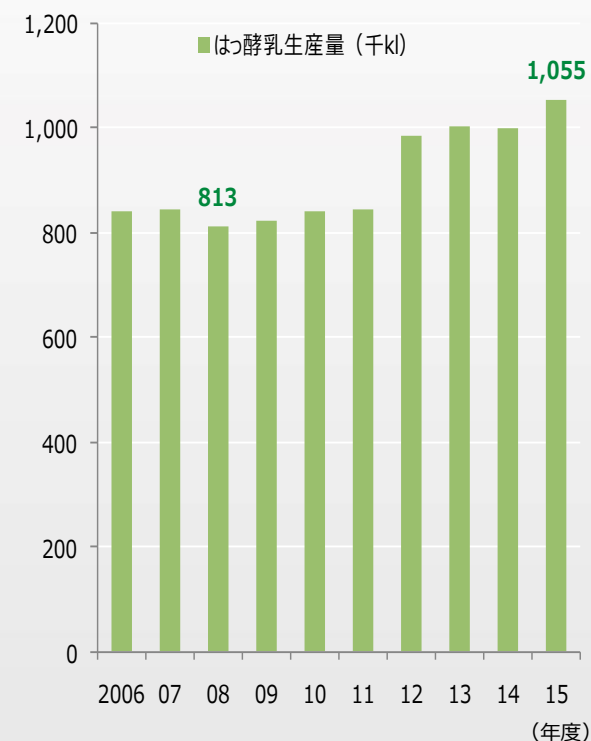
出所) 一般社団法人日本アイスクリーム協会より

チョコレート製品国産・消費推移



出所) 日本チョコレート・ココア協会より
国内生産量・一人当たり消費量は全日本菓子協会の
推定数字による

はっ酵乳生産量 (乳業)

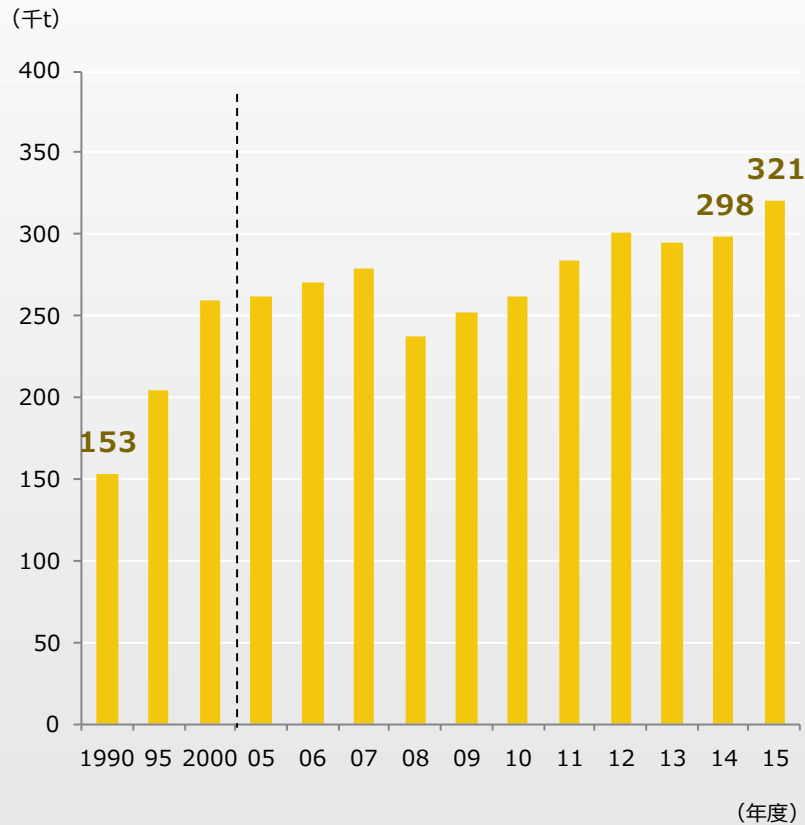


出所) 牛乳乳製品統計(農水省) および
「乳業年鑑」(日本乳業協会)より

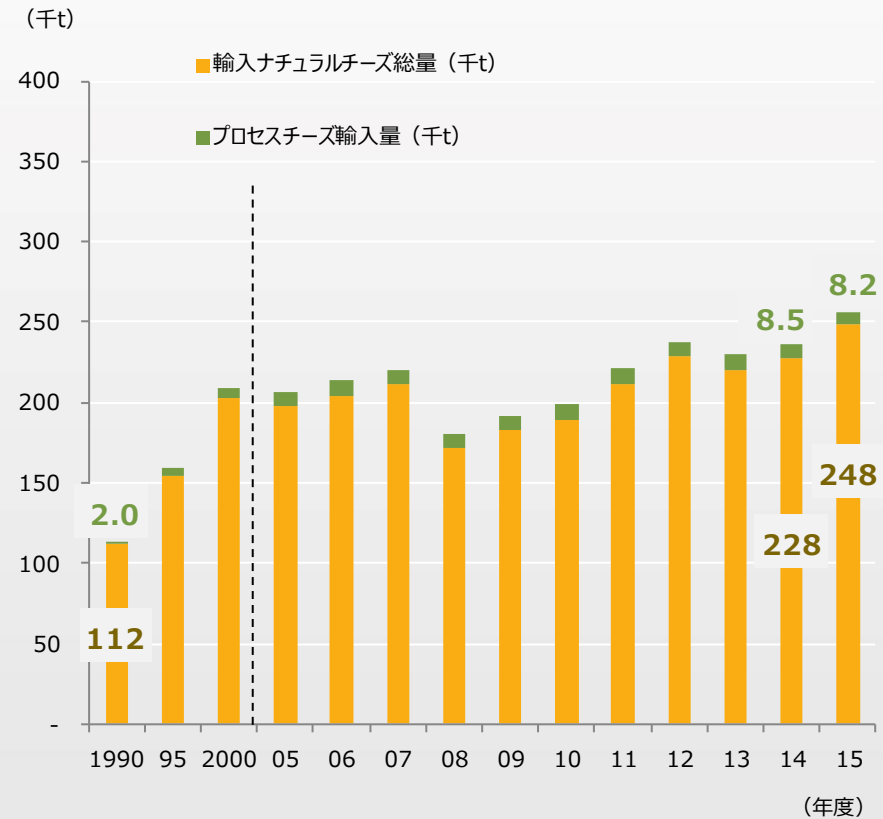
チーズの国内消費量は増加傾向

チーズの国内消費量は増加傾向が継続、
プロセスチーズ生産用も含めナチュラルチーズの輸入量は増加

国内チーズ総消費量



チーズの輸入量

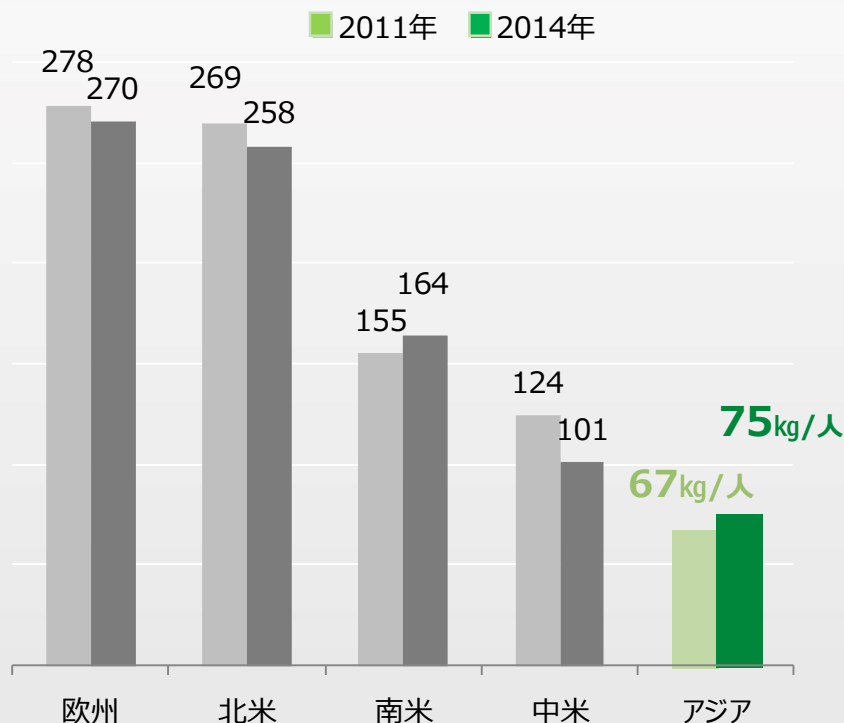


出所) 農水省「平成27年度チーズの需給表」(2016/6/10公表)より

アジアの乳製品市場の拡大余地は大きい

アジアの乳製品市場は黎明期、今後の市場拡大余地は大きい
国内企業のほとんどは未進出

世界の年間乳製品消費量 (kg/人、生乳換算)



出所) International Dairy Federation
"The World Dairy Situation 2014"

年間チーズ摂取量比較

フランス : **26.7**kg/人

ドイツ : **24.6**kg/人

アメリカ : **15.5**kg/人

日本 : **2.3**kg/人

出所) International Dairy Federation
"The World Dairy Situation 2014"

アジアの乳原料・チーズ市場を創造

日本の食文化の輸出・高い提案力により、アジアの乳原料・チーズ市場を創造

ユニークなアプリの提案

日本の食文化をベースとした
食べ方の提案

高い品質

AVA評価^(注)
創業時から10年連続「A」

アジアでの成長の基盤

ハラール認証取得



(注) AVA (=シンガポールの農食品・獣医局) が年に一度監査し、ISO、HACCPに基づいた食品の衛生・安全管理が徹底されている会社に対して認定するもの。食品だけでなく、製造施設も監査の対象となる。

ラクト・ジャパンの成長戦略は？



中期経営計画「NEXT-LJ2019」:基本方針

Global Food
Professional Companyとして
消費者の皆様の健康と
食の楽しさを提供

Challenge 乳に関連した
「次世代ビジネス」
の構築

- 事業提携やM & Aも視野に、
既存事業とのシナジーが見込める新規ビジネスを構築

Growth

成長著しい
「アジア」での
事業拡大

- 商品バリエーション拡大
- 「ラクト」ブランドの浸透
- 未進出地域の販売ルート開拓（東南アジア等）

Base

「既存ビジネスの更なる深堀」および
「新規ビジネスの開拓」による
「顧客基盤」の更なる拡充

- 仕入、販売先との関係強化
- 新規商品の開発と新規顧客の開拓



成長に向けた今後の取り組み

乳原料・チーズ

- ニーズが高まる輸入乳原料の確実な供給でビジネスを拡大（減少する国産乳原料の着実な補完）
- 生産好調なヨーグルト、アイスクリーム、チョコレート用乳原料の供給拡大
- 飲料向け調製品の拡販（新規顧客の開拓）
- 海外サプライソースの多様化

食肉加工品

- チルドポークの販売先の多様化
- サプライソースの多様化
- ブランド・チルドポークの開発（輸入ポークの差別化戦略を強化）

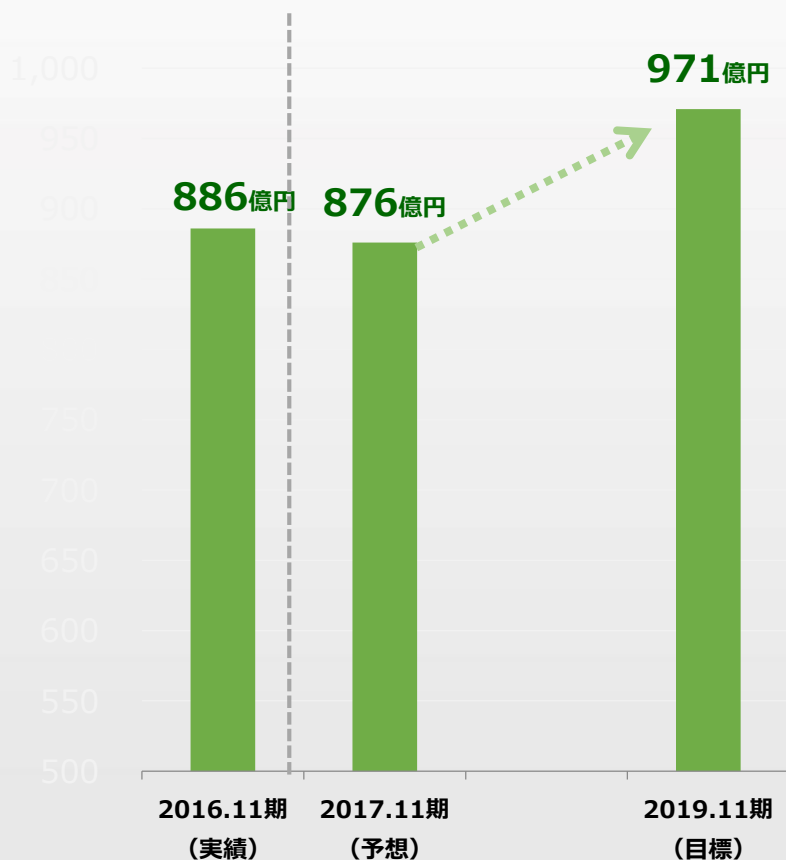
アジア事業・その他

- チーズ加工事業の強化（昨年度より生産開始した小売用アイテムの拡販）
- 商品ラインナップの拡充による「ラクト」ブランドの浸透
- タイ工場の本格稼働で生産量拡大
- 現地法人化したオランダ事務所をベースに、乳製品に加え幅広い食品の取扱いに向けたサプライソースの開拓を本格化

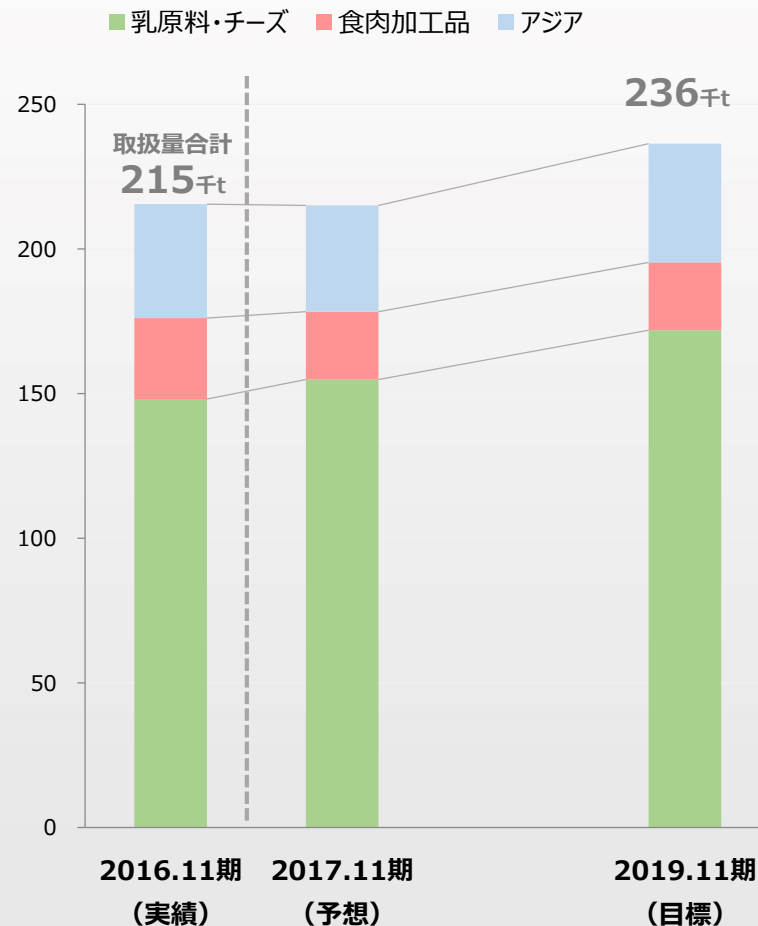


中期経営計画「NEXT-LJ2019」：業績目標①

売上高（連結）の目標



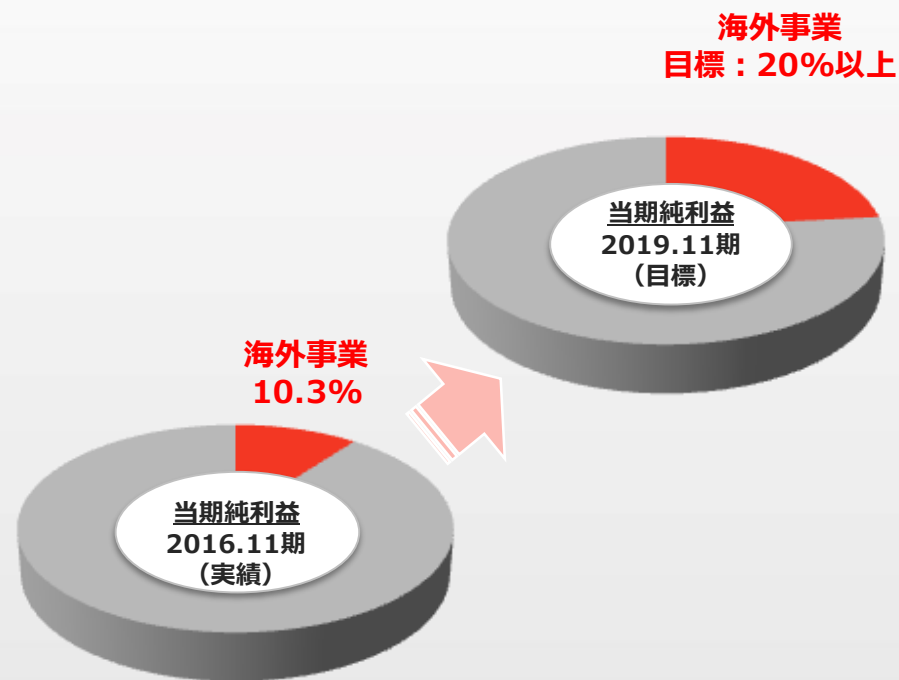
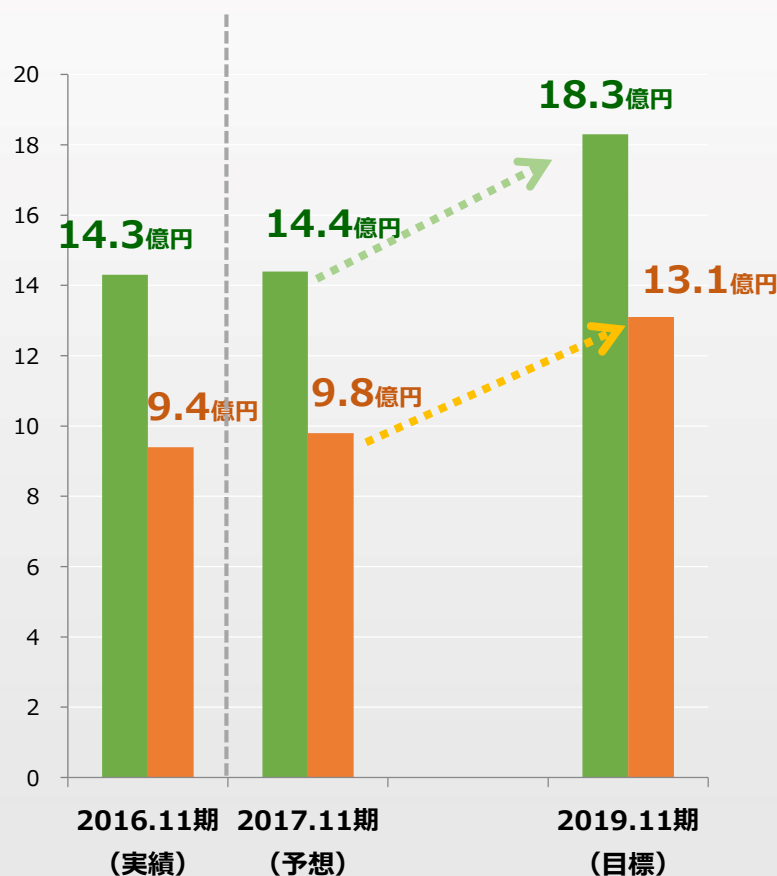
事業ごとの取扱数量の目標



中期経営計画「NEXT-LJ2019」：業績目標②

経常利益／当期純利益（連結）の目標

連結当期純利益に占める海外事業利益の比率



株主還元について（配当・優待）

安定配当を目指します

	2015.11期	2016.11期	2017.11期 (予定)
1株当たり 配当金	30円	32円	33円

継続した事業運営及び成長分野への投資、さらには
収益力強化に向けた事業基盤の強化などのため、
自己資本の充実を図るとともに、株主への利益還元を
最重要政策と位置付け、今後も増配を目指します。

株主優待制度を導入しています

対象となる株主	5月末現在の当社株主名簿に記載された、当社株式1単位（100株）以上を保有いただいている株主様
優待の内容	対象となる株主様1名につき、クオカード1,000円分を贈呈
進呈時期	8月末ごろ予定



(ご参考)
2016.11期業績と
2017.11期業績予想について



2016.11期 業績ハイライト

連結業績

前期比では減収ながら、経常利益・当期純利益はともにプラスで着地。期初予想に対しては増収増益を確保。各事業とも製品市況や為替の影響があったものの、数量増が増益に貢献。

乳原料・チーズ

国際乳製品価格の下落や円高の影響により仕入価格が大幅に下落したことで前期比減収。

ただし、逆に価格下落が輸入原料への需要を高め、販売数量は増加。

加えて、当社の強みである優良サプライソースのネットワークを駆使し、仕入コスト管理の徹底を行った結果、単価下落をカバーして利益は前年を上回った。

食肉加工品

前期発生した豚の疾病（PED）や米国西海岸での港湾労働争議の影響が収まり物量が回復、増収を確保。

ただし国内の豚肉市況低迷で利益は前期比マイナス。

アジア事業・その他

乳原料販売部門では調達力を活かし競争力ある商品の販売が奏功し、販売数量増、外貨ベースでは増益。ただし、国際乳製品価格の下落・円高の影響で円貨ベースの売上・利益はマイナス。

チーズ製造販売部門では、シンガポール工場におけるリノベーションによる一時的な生産減や中国向け販売の減少などにより販売数量が伸びず、減収となった。

2016.11期 連結業績

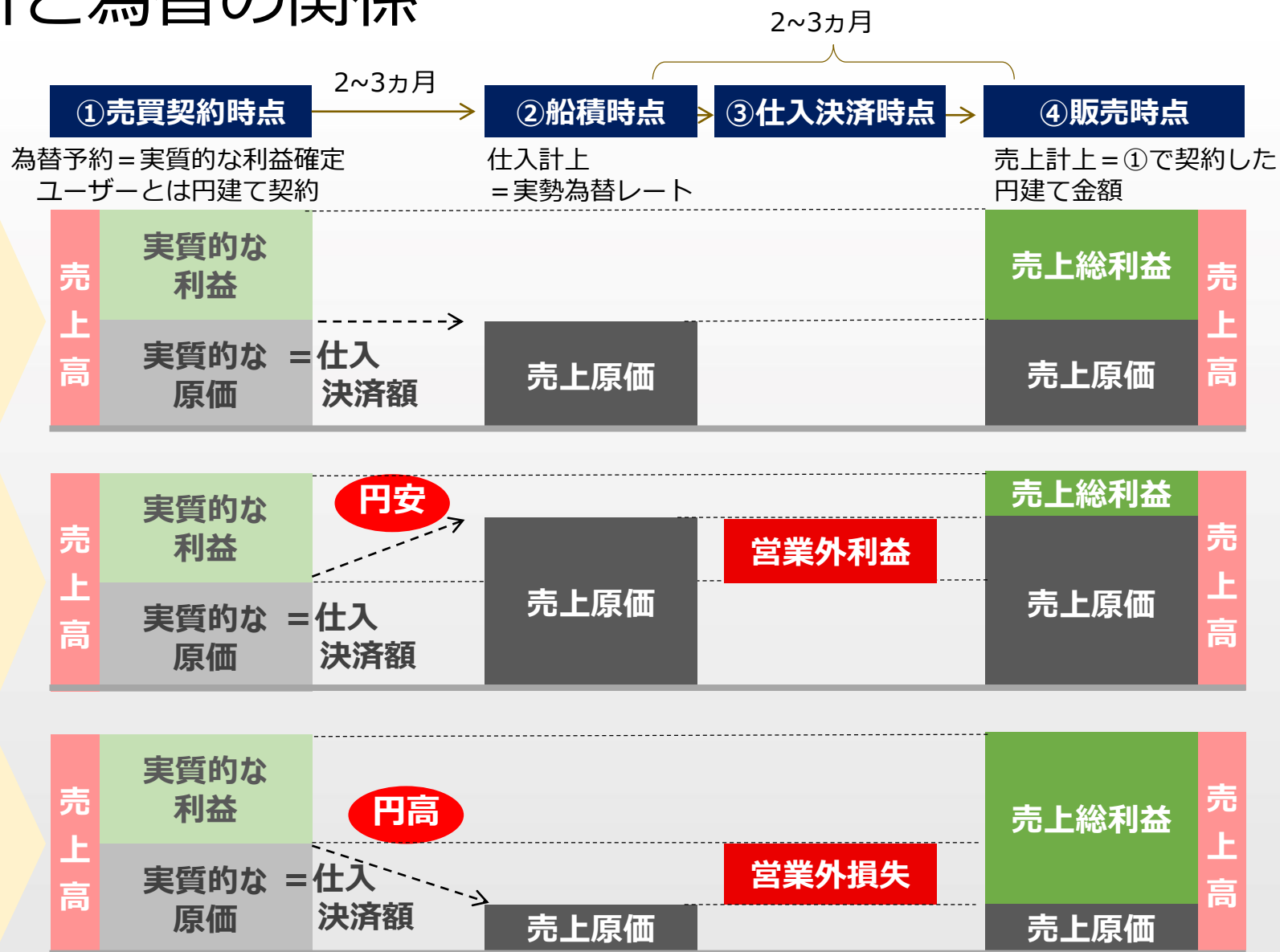
							(百万円)
	15.11期 実績	実績	16.11期				
			対前期比 増減額	対前期比 増減率	期初予想	対実績 差額	達成率
売上高	98,000	88,679	▲9,321	▲9.5%	85,140	3,539	104.1%
経常利益	1,343	1,434	90	6.8%	1,080	354	132.7%
売上高経常利益率	1.37%	1.61%					
親会社株主に帰属する 当期純利益	831	946	115	13.8%	700	246	135.1%
売上高当期純利益率	0.84%	1.06%			0.82%		
一株利益	197.87円	193.57円			143.16円		
為替レート：米ドル ：ユーロ	120.84 135.55	109.33 121.18			— —		

* 各期末時点において、仕入決済が完了し、為替ヘッジにかかる為替差損益が計上されているものの、販売が翌期以降に行われるため、損益の計上が翌期以降に予定されている取引について「翌期以降計上予定損益」として記載しております。

注) 財務数値の表示は端数切り捨て

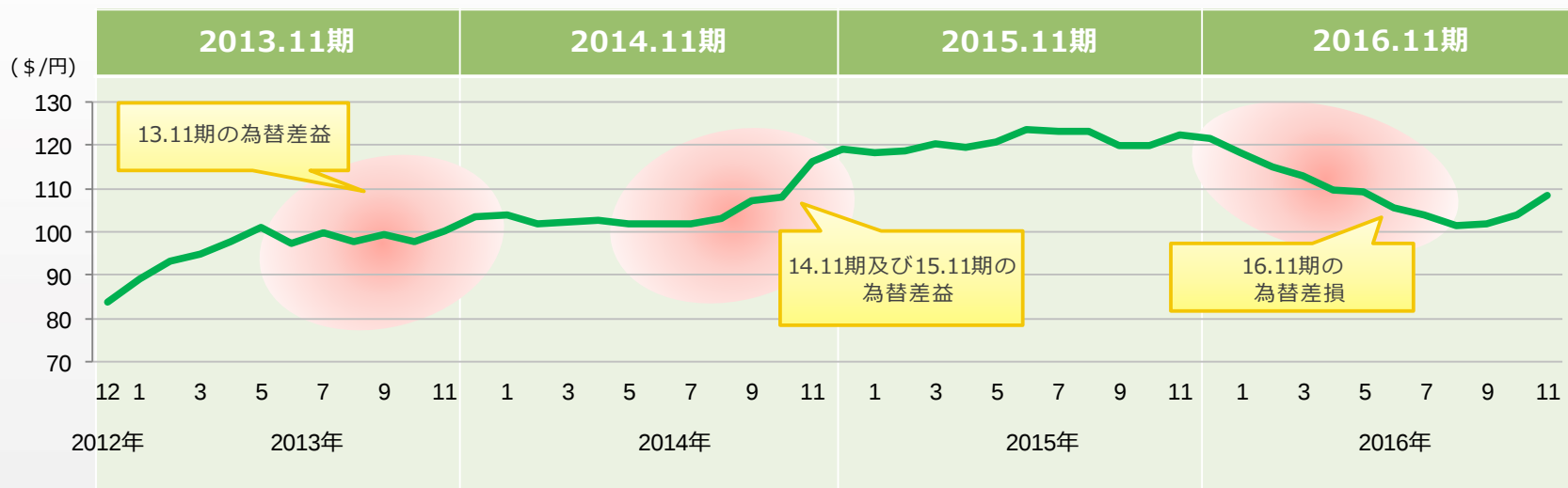


取引と為替の関係



業績数値への影響

為替レート推移



売上高および利益の実績（連結）

(単位：百万円)

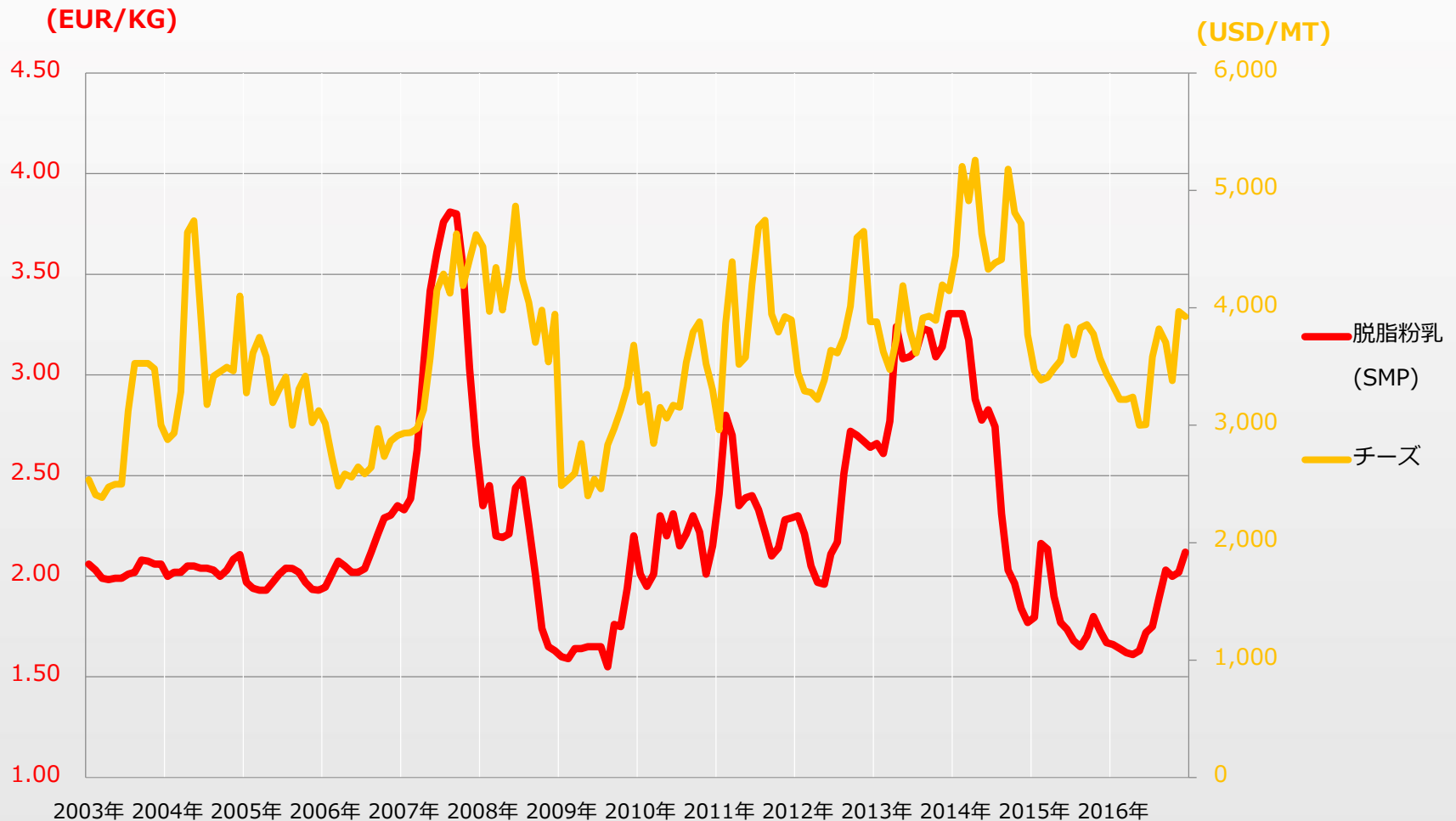
	2013.11期	2014.11期	2015.11期	2016.11期
売上高	75,942	96,549	98,000	88,679
売上総利益	3,258	4,258	3,648	6,345
営業利益	699	1,531	720	3,349
為替差損益	1,188	638	1,052	▲1,537
経常利益	1,669	1,653	1,343	1,434



乳原料・チーズの国際市況

脱脂粉乳：オランダ公定価格 EUR/KG工場前価格（2003年1月～2016年12月）

チーズ：米国CMEチェダー取引価格推移 USD/MT（2003年1月～2016年12月）



2017.11期 連結業績予想

(百万円)

	2016.11期 実績	予想	2017.11期	
			増減額	増減率
売上高	88,679	87,660	▲1,019	▲1.1%
経常利益	1,434	1,440	6	0.4%
当期純利益	946	980	34	3.5%
一株利益	193.57円	200.43円		
一株配当	32円	33円		
配当性向	16.5%	16.4%		

(ご参考) 投資関連情報



投資参考情報

市場	東京証券取引所 市場第2部
証券コード	3139
単元株数	100株
株価（1/13終値）	1,699円
最低購入代金	169,900円
配当利回り（予想）	1.94%
PER・連結（株価収益率・予想）	8.47倍
PBR・連結（株価純資産倍率・実績）	0.72倍

注）配当利回り、PER、PBRともに2017/1/13の終値をベースに算出

株価の推移



ホームページのご案内



IR情報



会社紹介

Global Food Professional Company

A globe constructed from interlocking puzzle pieces in shades of green and blue. The pieces feature various images: a close-up of a person's face, a bowl of fruit, a toilet, a person drinking from a bottle, and a person looking at a book. The globe is set against a white background.

世界中の優良仕入先との強固な信頼関係を基に、
お客様に対して安心、安全な原料を安定的に供給し、
最終的に消費者の皆様の滋養と健康および食の楽しさに寄与することで、
社会に貢献しともに成長・発展し続ける企業を目指していきます

ご清聴ありがとうございました。

【ご注意事項】

本資料には、当社の戦略や見通しなど将来の業績に関する記述が含まれております。これらは現時点における当社の判断に基づくものであり、リスクや不確実性を含んでおります。経営環境の変化など、さまざまな要因により変更されることがあります。あらかじめご了承ください。